

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02338

研究課題名（和文）模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究

研究課題名（英文）A basic study on the history of accepting calligraphy in modern times centered on Shinbi Tanaka, Leader of reproductions making

研究代表者

恵美 千鶴子 (Emi, Chizuko)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・室長

研究者番号：60566123

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：明治時代から昭和時代までさまざまな書画の模本を制作した田中親美（1875～1975）は、当時の収集家に書を普及する役割も行っていた。本研究課題では、その田中親美の作った模本のデータを集めるとともに、模本の調査、遺族からの聞き取り調査を実施した。とくに、5組制作した「平家納経（模本）」（原本：国宝、広島・嚴島神社所蔵）については、益田家伝来分（東京国立博物館所蔵）と大倉家伝来分（東京・大倉集古館所蔵）の比較調査を行ない、依頼者（収集家）によって田中親美が写し方を変化させていることを明らかにし、その成果を東京国立博物館の特集展示で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

田中親美の模本制作を研究することで、明治時代から昭和時代までの間に、書がどのように評価されてきたのかを検討できた。書は、明治時代以降に「美術」という近代的な新しい枠組みからはずされてきたため、その受容史を研究し再評価することで美術史や文学史などに新しい研究視点を生み出すことができる。本研究課題では、田中親美の模本の詳細から、当時、書がどのように受容され鑑賞されていたのかの一端を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：Shinbi Tanaka, who made the reproductions from the Meiji era to the Showa era, spread the calligraphy to collectors. In this research project, we collected the data of the reproductions made by Shinbi Tanaka. Then, we conducted a survey of reproductions and interviews with descendants.

Tanaka made five sets of reproductions of the sutras donated by the Heike clan owned by Itsukushima Shrine. A comparative study was conducted between the reproduction that were delivered to the Masuda family and the Okura family. The results of the survey were released at an exhibition at the Tokyo National Museum.

研究分野：日本書跡史

キーワード：書跡 書道 古筆 模本 近代美術史 田中親美 平家納経

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

明治時代以降の日本では、欧米の文化的影響を受ける中で「美術」という新しい概念が作られ、博覧会や博物館・美術館で「美術」の展示がはじまり、「美術」の制作・教育が推奨されるようになった。しかし、書(書跡)は、「美術」とは違う独自の道を歩んできた。明治5年(1872)に創立した東京国立博物館(当時は文部省博物館。以下、東京国立博物館と呼ぶ)においては、書の収集展示が行なわれてきたが、明治22年(1889)に開校した東京藝術大学(当時は東京美術学校)には、書を専門とするコースが設置されなかった。明治36年(1903)の第5回内閣勸業博覧会では「美術」部門の書が無くなり、明治39年(1906)の第一回文部省美術展覧会にも書の分野が無かった。このような状況の中で、個人の集まりである難波津会や斯華会などが書を研究し、益田鈍翁をはじめとする近代数寄者が書を蒐集することで、近代において新たに書が受容され評価されていた。その研究者や近代数寄者のご意見番として位置したのが、本研究課題で中心にとりあげた田中親美(たなかしんび、本名:茂太郎、1875~1975)であった。

田中親美は、父・田中有美に絵を習い、東京国立博物館に勤めていた多田親愛から書を学んだ。20代の頃より「源氏物語絵巻」(国宝、徳川美術館ほか所蔵)をはじめとする書画の模本を制作し、「本願寺本三十六人家集」(国宝、西本願寺所蔵)の模本では、唐紙など装飾料紙まで再現し始める。大正9年(1929)からは、益田鈍翁や高橋篤庵ほか近代数寄者の募金により「平家納経」(国宝、厳島神社所蔵)の細部まで精巧な模本を制作した。また、親美は、数々の模本制作の経験から優れた鑑識眼を持つに至った。親美の学識の恩恵にあずかりたい当時の研究者は田中邸に集まり、書の研究を促進させていった。さらに親美は、近代数寄者と交流し、書の受容を推し進めた。以上のように近現代の書の受容史・研究史を語る上で田中親美の業績は欠かせないのだが、これまでまとめた田中親美に関する研究が行なわれてきていない。それは、田中親美によって制作された模本の所蔵者が個人だった場合が多いため所蔵先情報の確認が困難であることと、田中親美自身によって残された言説が少ないことが原因と考えられる。本研究課題では、近現代の書の受容史・研究史を研究するために、田中親美の業績のデータをできる限り多く収集し整理することを第一の目的とした。

2. 研究の目的

日本では、少なくとも平安時代には、書(書跡)を芸術品および鑑賞物として制作し、伝えてきた。世界的に書をそのように文化財として扱う国は、日本と中国、アラビアだけであり、珍しいことである。日本で歴史上において芸術品として扱われてきた書が、明治時代以降に西洋文化の輸入や殖産興業政策などにより、新たに作られた「美術」という概念からはずれてきた。そして現代では、書の見方・鑑賞方法がわからないという声が数多く聞かれる。その書を、明治から昭和にかけて、評価し普及し続けたのが、田中親美である。本研究課題では、その田中親美の業績を明らかにすることを目的とした。

明治時代後期から昭和にかけて、田中親美は、数々の書画の精巧な模本を制作していた。それらの原本は国宝や重要文化財に指定されているものも多数あるが、なかには原本の消失したものの、原裝訂から分割され所在の確認できないものもある。本研究課題では、これまでまとめて研究されることのなかった、田中親美の制作した模本の所在を確認して、全業績を整理し、研究することを目的とした。また、田中親美は模本制作で培われた書画に対する鑑識眼を持っており、当時の研究者や所蔵者らと交流していた。田中親美の業績をまとめることにより、近現代における書の受容と評価に関する研究を進めることも目的とした。

3. 研究の方法

(1) 田中親美制作の模本・複製本の所在確認とデータ収集

まずは、研究代表者が所属する東京国立博物館において所蔵されている模本・複製本についてリストアップし、写真撮影を行なった。そして、田中親美の遺族や、所蔵している博物館・美術館の学芸員に協力してもらい、田中親美がかかわった模本・複製本のデータを収集した。

所蔵者の許可が下りた模本・複製本について調査と撮影を行なった。また、「平家納経」(原本:国宝、広島・厳島神社所蔵)については、親美が全33巻を合計5組作成している。これらの模本同士の比較調査を実施した。

(2) 田中親美関係資料の収集

田中親美に関する聞き取り調査:田中親美の遺族や関係者から聞き取り調査を実施した。

田中親美にかかわる作品データ収集と調査:田中親美旧蔵の作品や、田中親美が言述した作品にかかわるデータ収集を行ない、所蔵者の許可が下りた場合は調査・撮影を実施した。

田中親美に関する資料収集:田中親美自身が著した文章はできる限り収集し、PDFまたはテキスト・データで保存する。また、田中親美より聞き書きをした文章や、関係者が田中親美について述べた文章なども収集した。

(3) 個別研究:収集した模本や関係資料データをもとに、田中親美の業績や模本制作に関する個別研究、また近現代の書の受容や評価に関する研究を進めた。

4. 研究成果

(1) 田中親美制作の模本・複製本の所在確認とデータ収集:これまで展示や論文などで紹介された記録から所在を確認していく作業を行なった。そのほか所在に関係するようなデータを収集し、その中で、これまで確認されなかった新たな模本・複製本の確認もとれた。以上のデータは、デジタル・データとして入力し、まとめて保管しており、今後のデータ公開に向けて公開方法を検討中である。また、東京国立博物館が所蔵する模本・複製本の写真撮影を行ない、デジタ

ル・ライブラリー (<https://webarchives.tnm.jp/dlib/>) で公開すべく、準備を進めている。

(2) 模本の比較調査：東京国立博物館が所蔵する「平家納経模本」(原本は広島・厳島神社所蔵)一組全33巻(益田鈍翁旧蔵)と別本1巻(松永耳庵旧蔵)を、大倉集古館が所蔵する同じ模本一組と並べて比較調査を行なった。調査には、島谷弘幸九州国立博物館長(連携研究者)、研究協力者の大倉集古館・田中知佐子学芸員、徳川美術館・安藤香織学芸員、大和文華館・古川攝一学芸員(当時)、川島織物文化館・小柳正美学芸員の参加により、書だけでなく、絵や工芸など多分野の視点を生かした比較調査を実施した。また、田中親親美の模本制作を手伝っていた遺族も出席し、聞き取り調査も同時に行った。この調査においては、同じ「平家納経」の模本同士でも違っている点が多く確認された。この比較調査した結果をデータ化し、分析を進めた。

さらに、「平家納経模本」の比較調査を深化すべく、原本「平家納経」の調査も実施した。原本の調査実施には、厳島神社宮司・野坂元明氏、同禰宜・福田道憲氏、同権禰宜・山田圭二氏、同権禰宜・藤井幹也氏、連携研究者の島谷九州国立博物館長にご協力いただいた。なお、厳島神社が所蔵する田中親美制作の「平家納経模本」についても「厳王品」のみ調査を行なった。

(3) 田中親美遺族より聞き取りほか調査：田中親美遺族に面会し、聞き取り調査を実施した。また、これまで未公開であった田中親美旧蔵の「平家納経模本」(厳王品)を調査した。そして、遺族より親美にかかわる資料や作品を紹介してもらい、それらを調査した。

(4) 関係資料・情報の収集：生前に田中親美が発言した記録や雑誌・図録等資料より、関係する内容の記事を抜き出し、データ化を進めた。

(5) 成果公開：論文で発表した。また、東京国立博物館にて特集展示「平家納経模本の世界 益田本と大倉本」(令和元年10月22日～12月8日)にて成果を公開、同名の図録も制作し、東京国立博物館蔵模本と大倉集古館蔵模本、厳島神社蔵原本・模本、田中親美旧蔵模本との比較調査の成果も掲載した。とくに、「平家納経(模本)」のうち「厳王品」については、これまで未公開であった田中親美旧蔵本と、写真で公開されたことのない厳島神社所蔵本、東博所蔵本(益田本と松永耳庵寄贈本)、大倉集古館所蔵本、さらに厳島神社所蔵原本の比較画像を並べて紹介することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 74
2. 論文標題 藤原伊房筆 藍紙本万葉集	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ピオ・シティ	6. 最初と最後の頁 108-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 425
2. 論文標題 『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻と解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 1029
2. 論文標題 藤原行成の書の伝称と安宅切	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 正筆	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 755
2. 論文標題 自画賛 藤村庸軒筆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 茶道の研究	6. 最初と最後の頁 49-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 757
2. 論文標題 書状 千利休筆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 茶道の研究	6. 最初と最後の頁 55-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 18
2. 論文標題 学書と創造、そして伝える 平安の書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代の書 新春展	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 270
2. 論文標題 中国の書と日本の書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 別冊太陽	6. 最初と最後の頁 123-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 73号
2. 論文標題 世尊寺家の書02 藤原定信筆 戊辰切	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ビオシティ	6. 最初と最後の頁 110-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 74号
2. 論文標題 世尊寺家の書03 藤原伊房筆 藍紙本万葉集	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ピオシティ	6. 最初と最後の頁 108-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 0
2. 論文標題 三十帖冊子の歴史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 仁和寺と御室派のみほとけ	6. 最初と最後の頁 245-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 11号
2. 論文標題 明治宮殿の室内装飾に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 家具道具室内史学会誌	6. 最初と最後の頁 44 - 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 巻 24号
2. 論文標題 「古筆手鑑 (第三類)」の内容紹介と考察 近衛家瀬との関係から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三の丸尚蔵館紀要	6. 最初と最後の頁 13 - 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 恵美千鶴子
2. 発表標題 日本の書 その美と受容
3. 学会等名 愛知県立芸術大学芸術講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恵美千鶴子
2. 発表標題 平清盛と「平家納経」
3. 学会等名 宮島観光協会平清盛生誕900年記念講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恵美千鶴子
2. 発表標題 藤原行成の書とその系譜
3. 学会等名 第57回現日書展講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京国立博物館	5. 総ページ数 64
3. 書名 高野切と仮名の美	

1. 著者名 恵美千鶴子（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 410
3. 書名 禁裏・公家文庫研究 第六輯	

1. 著者名 恵美千鶴子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京国立博物館	5. 総ページ数 42
3. 書名 田中親美制作 平家納経模本の世界－益田本と大倉本－	

1. 著者名 恵美千鶴子（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 376
3. 書名 正倉院宝物に学ぶ3（「東京国立博物館の蜷川式胤関係資料」）	

1. 著者名 塩谷 純、増野 恵子、恵美 千鶴子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 284
3. 書名 近代皇室イメージの創出（「明治の皇室に選ばれた表象 明治宮殿と御物」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----